

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694100054		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家山科小野 ユニット2		
所在地	京都市山科区勸修寺御所内町122		
自己評価作成日	令和4年6月13日	評価結果市町村受理日	令和4年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2694100054-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	令和4年7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外へ出る機会を失いましたが、当施設周りには自然があり川沿いには遊歩道があります。お天気の良い日には散歩に出掛けることが多くあります。春には桜の並木道が満開になり、近くでおやつを買いお花見に出掛けます。閉鎖的にならず、外へ出ることも大切と考えています。施設内では、日々のレクリエーションの取り組みで、楽しみのある日常生活の支援に努めています。「たのしい家」の名のとおり、笑い声が響く施設創りを職員一同心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、介護理念に、「入居者様の尊厳を尊重しその人らしい安心安全の生活ができるよう支援する」以下3項目を定め、コロナ禍でも地域清掃や菜園栽培などを通じた地域交流、近くの会社やコンビニエンスストアとの良好な関係の継続等、地域を大切にしたい運営を心掛けています。何かあると案内してくれる町内会の方々、退所後も庭の花や柚子などを持ってきてくださる元入居者ご家族等が、口コミで事業所の良さを伝え、それを聞いての入所希望もあります。入居者は頂いた花を生けたり、新聞の切り抜き、おやつ作り等を楽しみ、川添いの散歩も日課としています。フロア内でコンパクトな夏祭りも催され、季節に合ったイベントを楽しんでいます。最近では書面開催が殆どですが、運営推進会議には入居者も参加し、「酒が飲みたい」等、自由に意見を述べています。また、法人は職員の気づきを大切に、「ほめカード」のやり取りを通じて感謝の気持ちを伝え合い、プラス思考と、加点方式の運営により、職員のやる気や連帯感を引き出しています。夜中でも駆けつけてくれる医師や訪問看護師の手厚いサポートや看取り体制もあり、最期迄のしく暮らし続けられる事への安心感が入居者の表情に現れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や支援に対する日々の会話の中で、理念を踏まえた話し合いを行い、共有し実践に繋げています。	家族にも見てもらえるように、事業所理念は玄関に貼っている。11月の法人の年度初めに向けて職員全体で見直し、今年度もこれによいとの結論になり、全職員が実践に向けて励んでいる。今後は更に浸透させるために、毎月の全体会議でも確認し合う意向である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、運営推進会議において地域の方の参加をしていただき、また地域の一員として地域の行事には積極的に参加し、交流を重ねています。	今まで参加していた地域行事も中止となり、事業所の夏祭りなども内々でおこなう事になり、交流は激減しているが、地域の方が世話をしてくれる畑に野菜や向日葵が大きく育ち、マスクの寄贈もあり、今年は地域の秋祭りの再開も検討中で、その際は参加する意向である。向かいのコンビニエンスストアや隣の方々と顔見知りで、有事には協力して頂ける事になっている。事業所周辺を清掃し、地域の美化に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議や地域ケア会議では、事業所での取り組みや認知症ケアについての意見交換を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者よりアドバイスや助言をいただき、会議で職員と共有し、サービスの向上に活かしています。	コロナ禍により、運営推進会議には行政や公的な立場の方は参加されず、書面開催とし、入居者や事業所スタッフのみで実施している。行事や入居者の状況、入退院者、平均介護度、事故報告、職員研修等の事業所情報を盛り込んだ議事録を作成し、市役所や民生委員や、地域包括支援センターに郵送している。	会議への入居者参加と意見聴取等により丁寧な会議運営に取り組まれています。一方で、従来からの会議関係者である、民生委員、地域包括支援センターなどへの事前照会等の働きかけが薄いように見受けられます。書面会議であっても小さく縮こまらず、少しでも外部の意見を入れ、議事内容の広がりや、双方向的な会議への配慮が望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政機関とのやり取り等必要なときは電話連絡を密に、協力関係を築くよう取り組んでいます。	山科区認知症サポート連絡会や、地域包括支援センター主催の地域ケア会議などにWEB参加している。行政に事故報告をしている。避難訓練に消防署の立ち合いがあり、消防署員の訓練が近くの川でおこなわれる時は駐車場を提供している。	

京都府 グループホームたのしい家山科小野 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束防止研修を年3回受講し、身体拘束についての理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	運営推進会議に合わせて虐待・身体拘束委員会を実施していたが、書面開催となり、事業所内だけでおこない、議事録に残している。毎回違うテーマで話し、自事業所の例だけではなく、他の事業所の事例なども挙げて具体的に検討をしている。全職員が所定のWEB研修を受け、理解度チェックテストの結果により、管理者面談や再履修の要請が法人本部からある。帰宅願望や出たがる方には、職員と一緒に歌を唱ったり、事業所内を歩き、気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員は虐待防止研修を年3回受講することで、学びや意識を高め、虐待の芽チェックリストを活用し、虐待の芽を摘み防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を社内研修にて、年1回学ぶ機会があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得していただけるように、丁寧に十分な説明を行っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場では、外部の方のご意見も伺い、運営に反映することもあります。	法人本部が入居者家族宛に年1回アンケートを実施し、結果が事業所に帰ってくる。面会を再開し、面会時や普段も電話等で家族から要望を聞いている。運営推進会議に入居者が参加して意見を述べている。入居者からは、食べ物に関する要望が多く、焼肉等は実現している。酒を飲みたいという要望もあったが、医療的な問題のある方で、そのうち本人も言わなくなったので留保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話やユニットごとの会議、また全体会議などで意見や提案があれば聞き、みんなで話し合うことで、運営に反映させています。	普段から意見が言いやすい環境があり、排泄に関わる事や、夏祭り等の行事への提案等も出ている。自己申告挑戦シートでは、人事異動の希望を直接法人に出すことができ、「業務改善提案書」も直接本社に届き、社内のホームページでプロセスから結果までを見ることができるようになっている。職員間で交わす「ほめカード」で自己肯定感を高め、気持ちよく仕事ができるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価と上長の評価により、年1回人事考課の評価制度が設けられています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内においては年間研修計画があり、職員全員が受講します。社外研修受講希望者には、受講の確保を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政区の連絡会や地域ケア会議、また同業者との情報や意見交換を行い、サービスの質の向上に繋げています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの際には、質問だけにならないように、ご本人の訴えにしっかりと耳を傾け、安心していただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの際には、ご本人の訴えだけではなく、ご家族のお困りごとや不安に思っておられること、要望等を伺い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族の意向を伺い、優先順位を見極め、必要な場合は、主治医より指示をいただき、訪問マッサージ利用なども対応しています。		

京都府 グループホームたのしい家山科小野 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、常に声掛けを意識し寄り添うコミュニケーションを図り、関係構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会をお願いし、近況報告など情報の共有を行い、関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族より、親類の方やご友人の面会の相談があれば、ぜひ来所いただけるよう支援に努めています。	最近条件付きで面会を再開し、エントランスでの談笑や家族と近隣散歩をされる方もいる。個人的に新聞や雑誌の購読をされている方、新聞の切り抜きをされる方、カラオケをしたり、お茶をたて楽しんで、花を生けて楽しんでされている。以前教会に行かれていた方は、現在は中断している。家族からの電話の取次ぎや、「たのしい家山科小野通信」の発送等で、家族に本人の様子を定期的に報せている。以前は馴染みの美容院に行かれる方もあったが、コロナ禍以降は訪問理美容を利用されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの椅子の配置や、レクリエーションでの関わりを大事にしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご相談があれば、親身に対応させていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングや状態変化時等必要時には、カンファレンスを行い本人本位の検討を行っています。	入居当初と1～3か月の間で家族にも話を聞き、アセスメントをしている。安定されると原則6か月ごとに更新している。普段から入居者と会話を持ち、聞き取ったことを、ケアカンファレンスやサービス担当者会議などで共有し、介護計画に反映させている。分かり易く、事務効率のよい専用ソフトの入ったスマートフォンやタブレットを駆使し、直接援助に関わる時間を増やしている。	

京都府 グループホームたのしい家山科小野 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に確認させていただき、聞き取れなかった場合は、何度も聞き取りをさせていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに常に目を向け、気づきがあれば、情報共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族や医療機関へ、ご意向ご意見等伺い、カンファレンスを行い、現状に即した介護計画作成に努めています。	毎月のフロア会議の後に入居者カンファレンスを実施し、情報共有をしている。介護計画は全職員で協議し、参加できない場合は事前に意見聴取している。モニタリングは3か月ごとにおこない、計画変更の必要があれば職員から意見が出て、所定の6か月を待たず計画を変更している。介護計画には、医師や訪問看護師、薬剤師等の役割も明記されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は日々の様子を確認共有し、カンファレンスでは、情報や意見交換し、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態により、主治医より指示をいただき訪問マッサージを受けることもあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民のボランティアの方と一緒に、自施設で畑作業や芋掘りをするもあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	インテークや契約時にご説明し、今までのかかりつけ医、訪問診療医どちらでも希望可能とのご納得いただいています。	全入居者が事業所の協力医療機関に変更され、月2回の訪問診療を受け、訪問看護師が月4回来て健康管理と医師との連絡調整に当たり、医師・看護師ともに24時間体制で対応している。薬剤師の薬剤指導、歯科医の訪問治療、歯科衛生士の口腔衛生指導、訪問マッサージ等も受けられるが、いずれも献身的に対応してくれる事業所を厳選し、安心して医療支援が受けられる体制となっている。他科受診には家族が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護で、入居者様の状態を伝え、必要時適切に医療機関へ連携させていただいています。		

京都府 グループホームたのしい家山科小野 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には早期に退院できるよう、病院担当者ともまめに情報交換しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方については、契約時にご説明をさせていただいています。状態の変化等あった場合に、再度医療機関を含め方針を共有し、チームで取り組んでいます。	「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」を備え、医師・看護師・介護職のチームケアで開設以来何名も看取っている。今年度は1名で、他にも希望の方がおられたが、家族の意向で急遽病院搬送となった。コロナ禍ではあるが看取り家族には特例で、面会や食事介助、臨終の立ち合い等をしていただき、感謝されている。職員の振り返りでは、もっとしてあげられたのではないかなど声が出ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修や、事業所内での繰り返しの伝達を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様も参加していただき、年2回の消防避難訓練、水災害訓練を実施しています。災害時にはコンビニに応援を依頼します。	消防避難訓練は年2回昼間・夜間想定で実施している。うち1回は消防署立ち合いで細かく見てもらい、講評やアドバイスももらっている。入居者も参加しエントランスまで避難している。近在の会社やコンビニエンスストアに火災時などの避難の協力などをお願いしている。水害訓練は年1回垂直避難で2階へ避難している。水やおかゆ、レトルトのおかず、乾パン、懐中電灯、カセットコンロ、ブランケットを2階に備蓄し、近隣の同法人のグループホーム2か所と連携を取り、必要時には助け合っている。BCP計画も法人が作成し、事業所に合った内容にして職員のいるフロアに置いていつでも見られるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心やプライドがある方も多いため、特に排泄時の声掛けには配慮し対応しています。	年1回の接遇研修は、職員全員がWEB研修を受けて、レポート提出をしている。管理者は職員に、挨拶や笑顔、はっきりしゃべる等を常に心がけて言葉を選びながら丁寧に話すことや、目の高さを合わせて、優しく触れる、いわゆるユマニチュード技法で、人のぬくもりを感じ、安心や信頼を得ていく事が大切と伝えている。呼称・入室時のノック等に気をつけ、職員の言動が気になった場合は、少し離れた所で本人に注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のレクリエーションやその方のお誕生日には、好きな食べたい物をお聞きしています。また歌を歌いたいとご希望のときには、カラオケを行います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員優先の場面があったときには、その場で職員に説明を行い、また会議などで入居者様本位でと伝えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をされたり、ご希望の方は定期的に毛染めをされ、おしゃれをされています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクリエーションのときには、好みを聞かせていただきます。食事の盛り付けや食器洗いを一緒に行っています。	業者の食材を調理して提供し、入居者は炒めたり、盛りつけ、食器洗い等できることをしている。食事レクリエーションでは、希望により、薄切り肉の焼肉や鰻等の人気メニューを企画し、まわる寿司のテイクアウトも利用している。おやつレクリエーションは、各々のできることを見極め、以前料理をしていた方には具材を混ぜる、焼く等を任せ、特技を活かす支援をしている。どら焼きやパフェ、手作り誕生ケーキにデコレーションをして楽しむ事もある。おせち料理は、入居者の好む物を購入して重箱に詰め、白玉ぜんざい等も添え、季節を感じてもらっている。敷地内の畑で採れた野菜や、入居者が掘ったじゃが芋も、食卓に上る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を観察しています。必要な方には、食事量・水分量をコントロールしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じた口腔ケアを、適切に支援しています。		

京都府 グループホームたのしい家山科小野 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の管理を行いパターンを把握し、トイレを促すことで失敗を減らし、排泄の自立の支援を行っています。	排泄パターンを把握し、本人にあった誘導や声かけをしている。自立の入居者もおられるが、一人ひとりを丁寧に支援し見守っている。以前入居していた事業所で紙パンツを使用されていた方が、布パンツでも大丈夫ということがわかり、布パンツに変えた。個々の排泄用品や衣類を支援時に確認し、会議で話し合い、適切な使用方法を見極め、体調により体幹保持がしにくい方は、夜のみ居室でポータブルトイレを使用する事もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促したり、歩行運動を取り入れ便秘解消に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご自分のペースでゆっくりと入られたり、可能な限り希望があれば、回数を増やして入られることもあります。	湯船にゆっくりつかり、職員と1対1で昔の話を聞いたり、一緒に歌い、のんびりできるように配慮しているが、すぐに出ようとする方や、なかなか出ない方などがおられる。週2回以上の入浴も体制があれば可能である。拒否をされる方にはタイミングを見て声をかけたり、日時を変更している。湯加減や湯量は好みで、1回ずつ湯を入れ替え、石鹸等は好みの物も使用できる。家族が届けてくれる柚子で柚子湯を楽しむ事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じお昼寝をされたり、安心していただけるよう声掛けをおこない、安眠に繋げています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方の服薬内容をしっかり確認理解し、服薬の見守りと介助を行い、状態の観察をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味や特技を把握し、家事の役割を設けたり、レクリエーション内で提供し、気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は、一緒にスーパーへ出掛けたり、家族様と外出される場面もありました。少しずつ緩和され、現在近隣の散歩に出掛けられるようになり、可能なときは散歩に出掛けています。	本社から4月からの近隣の散歩の許可が出て、久しぶりに近くの川沿いの桜を見に出かけられた。今後は様子を見ながら車でのドライブ外出などを考えている。事業所横の川べりの遊歩道に1対1で散歩に出かけ、ベンチに座りゆっくりしている。面会時に、家族と近くを散歩される入居者もいる。家族との外出や外食の許可はまだおりていない。	

京都府 グループホームたのしい家山科小野 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分の財布を持たれている方もおられます。買い物にはまだ行けませんが、緩和されたら、支援に繋げていきたいと思えます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話があり放されています。またお孫様や親類・ご友人からの葉書などが届き、返信の支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングでは、温度や換気に配慮しています。廊下などにその時折の季節の絵や飾り、入居者様の習字を貼り、季節感を演出しています。	リビングでは、昼食を待つ間のパタカラ体操を入居者が楽しんでいる。窓からの採光は良く、明るい。浴室に繋がるトイレは、介助者が入ってもゆったりと広い。廊下の掲示板に職員と入居者合作の向日葵の花や、写真や習字が掲示され、100歳を迎えられた入居者のお祝いにも皆で作った「100」というちぎり絵やお祝いの言葉も掲示されている。温湿度管理、換気をして、空気清浄機や加湿器等を設置している。居室にテレビはあるが、みんなという方がいいと、入居者はリビングに集い、畑に咲いたひまわりやコスモスを飾り、楽しんでいる。清掃の出来る方は職員と一緒にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席の配置や、ソファを設置し居場所の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が居心地よく安心して過ごしていただけるよう、入居の際にご本人のお気に入りのお物や馴染みのある物を伺い、ご持参いただくようお願いしています。	扉の横のネームプレートに入居者の写真を貼り、自室を分かり易くしている。室内の収納スペース、ベッドやカーテン、空調機は備え付けで、布団や椅子、テーブル、テレビ、家族の写真、位牌、本、ぬいぐるみ等の馴染みの物を持ち込み、家族とともにその人らしい部屋作りをしている。壁のスライドレールフックには、服以外に好みの物も飾れる。清掃や空調管理や換気などは職員がしている。入居者の状態を見て不要なものは、家族に持ち帰り帰ってもらい、安全・快適に過ごせるようにしている。窓から近隣の緑が見える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、安全に手すりを設置、居室前には分かりやすく表札を設けています。		